

編集後記

『大分県地方史』第一九五号をお届けします。また、刊行が遅くなったことをお詫びいたします。今号は、西南戦争を特集し三重野勝人氏の「民衆と大分県の西南戦争」、高橋信武氏の「椎葉山―考古学的に調査した戦場の一例―」を論説に掲載し、報告として佐伯治氏に竹田市における西南戦争戦跡の紹介をいただいた。西南戦争については、すでに一八一号で高橋氏を中心とした西南戦争を記録する会によって、旧南海部郡宇目町黒土峠を例にした考古学的な調査の結果を紹介している。その後も同会は、現地の踏査を続け『西南戦争の記録』第三号をすでに刊行している。今回の論説も、旧宇目町椎葉山における西南戦争を考古学的に明らかにしたものである。三重野氏も一九〇号で「西南戦争と大分県」を発表しているが、今回は西南戦争を民衆とのかかわりに焦点を当てて論説したものである。大分県における西南戦争の様相が次第に明らかになり、今後は遺跡の取り扱いが課題として注目される。史料紹介には、甲斐素純氏の「明治二十一年の市制・町村制と玖珠郡・日田郡」(2)を掲載した。

(渋谷 忠章)

大分県地方史 第一九五号

平成十七(二〇〇五)年十一月二五日 印刷
平成十七(二〇〇五)年十一月三〇日 発行

編集者 渋谷 忠章

発行者 豊田 寛三

印刷者 廣永 晴巳

印刷所 有限会社舞鶴孔版

〒八七〇一〇〇二二

大分市大手町二丁目三十四

(☎〇九七―五三三―四三三)

発行所

〒八七〇一―一二四

大分市旦ノ原七〇〇

大分大学教育福祉科学部国史研究室内

大分県地方史研究会

(振替・〇一五八〇―二一五―一九四)

事務局 大分県立先哲史料館

〒八七〇一〇八一四

大分市大字駄原五八七―一

(☎〇九七―一五四六―九三八〇)